

市民広聴会「まちづくりエリアミーティング（第8回）」
意見交換内容まとめ（概要）

<テーマ> 市政全般

日時	令和5年2月19日（日）10時～11時30分
会場	大平市民センター
出席者	市長、参加者31名

回答については、当日の意見交換内容に加え、市の今後の対応予定等も記載しています。

参加者意見	回答
<p><防災訓練、井戸の管理、狭あい道路解消について></p> <p>災害対策には、公助・共助・自助という考えがあります。一番大事なのは、隣同士の付き合いだと思います。現状、学区単位の防災訓練はありますが、もっと小さい単位、例えば、町内会や組単位での訓練が大切だと思いますので、市で対応いただくことができるのか、お聞きしたいです。</p> <p>また、新潟地震、阪神淡路大震災の被災者のかたに直接お会いしたり、書物を読んだりして、「水」が大事だといわれていることを知りました。各地域にある井戸の管理を市が積極的に行い、災害時に活用する方法はないでしょうか。</p> <p>市内にたくさんある狭あい道路についても、行政が手を差し伸べて解消していただきたいと思います。</p>	<p><防災訓練、井戸の管理、狭あい道路解消について></p> <p>地域が行う防災訓練は自主防災組織による自主訓練になります。市作成の「自主防災組織による訓練等マニュアル」や地域総合防災訓練で行った内容を参考にさせていただきたいと考えています。市では、地域からの相談を受けたり、支援を行うなどの対応をしていますので、防災課へ御相談ください。</p> <p>井戸の管理は地域ごとに行っていただいております。市では、災害時に地域で活用できる井戸の確保を目的に、地域からの申請に基づき水質検査を実施しているほか、水の汲み上げに必要な資機材の購入に対する補助制度を設け、活用を促しています。また、出前講座、自主防災組織説明会等を通じて、断水時に有効活用できることを啓発しています。</p> <p>それから、来年度予算には、災害時の初動機に誰でも確実に避難所を開設し、運営できる手順を示した指示カードと、必要最低限の資器材と一緒に保管する「ファーストミッションボックス」について、外</p>

	<p>部の危機管理専門家に監修をお願いしながらワークショップを開催し、指示カードを取りまとめていくまでの経費を計上しています。これにより、災害発生初動期の避難所運営業務が住民主体でも行えるようになることを目指しています。作成後は避難所の運営訓練にも活用します。</p> <p>また、一人で避難することが難しい高齢者や障がいをお持ちのかたの個別避難計画も作らせていただいております、まずは特に重度の障がいをお持ちのかたなど、優先度の高いかたから作成を進めています。</p> <p>狭あい道路については、後退用地の寄附をいただき拡幅整備を進めています。地権者のかたの御理解と御協力をいただきながら、解消につなげていきたいと考えています。</p>
<p>< 場外車券売り場建設による渋滞対策について ></p> <p>今後、大平町に競輪の場外車券売り場ができると聞いています。一番困るのは交通問題です。渋滞対策をやっていただけるのか聞きたいです。</p>	<p>< 場外車券場建設による渋滞対策について ></p> <p>競輪の場外車券売り場については、まだ市に正式な話として挙がってきているものではございません。経済産業省の規定では、建設にあたっては地元の町内会の方々の同意を得ることになっていて、今、事業者がその作業を順次進めていると伺っています。</p> <p>市は、今後、都市計画法上、あるいは建築基準法上の手続きに関して、それが妥当なものであるか、きちんとした手続きを踏んだものであるかなどを審査する立場にありますので、その段階がきましたら市と言えることは言っていきたいと思っています。渋滞対策についても、経過を見ながら、関係機関と連携し検討していきたいと思っております。</p>
<p>< 食料危機について ></p> <p>2050年問題の一つに、食糧危機が挙げられます。今から市、市民が一緒になって真剣に考えなければならぬと思います。</p>	<p>< 食料危機について ></p> <p>地球温暖化により、地球が痛めつけられ、農作物を含めた生物にとって生きづらい地球になってはいけないということで、脱炭素社会</p>

<p>食料を確保するために、まず自給率を上げる必要があります。また地産地消、自給自足ともいわれています。自給率を上げていくためにアグリパークを開設してはどうでしょうか。市の60%を占めている山林をいかに活用するかを考え、市にある農業大学とも協力しながら専用農家を育成できるような組織を作り、みんなで真剣に将来の食糧不足を考えていくことをお願いしたいと思います。</p>	<p>を作っていくということにもつながってくるのだらうと思います。</p> <p>具体的に御提案がありましたアグリパークについては、国の「みどりの食料システム戦略」の方向性に沿って進めていくことが大事だと考えています。実は、現在、農業を持続可能なものとし食を安定供給していく取組の一つとして、担い手の育成・確保、地産地消・消費者交流を促進するための拠点となる農業公園(アグリパーク)整備に向け、基本構想を策定しています。これから調査や検討を進めていきますので、市民の皆さんからの御提案はできる限り反映させていきたいと思います。</p>
<p><待機児童、別園の問題について></p> <p>令和5年度の保育園入園に関して、4歳と1歳児の入園を申し込んだところ、1歳児が落選してしまいました。育休復帰のため、子どもを預けられる認可外保育施設を探していますが、新しい住宅も増えていて入園できない家庭がすごく多い状況です。</p> <p>問題だと思っているのが、岡崎市では令和3年以降の待機児童数が公表されていないこと、育休を1年延期した場合、待機児童数に数えられないこと、下の子を認可外保育施設に入れると第2子保育料半額の恩恵が受けられないことです。</p> <p>市の南部地域では待機児童対策として保育園の民営化などが進んでいますが、北部地域は進んでいません。阿知和地区工業団地の誘致により、子育て世代が増えた場合、こういった保育園問題がかなり加速すると思うのですが、市としてはどうお考えですか。</p>	<p><待機児童、兄弟別園の問題について></p> <p>待機児童、きょうだい別園、育休退園は、岡崎市にとって最も重要な課題の1つです。</p> <p>待機児童数は公表させていただいていて、令和3年度は72人、令和4年度は43人となっています。</p> <p>待機児童解消に向けて、様々な取組をさせていただいていて、おっしゃったように、市の南部地域では、私立幼稚園が幼保連携型の認定こども園になり0歳～2歳児の受け入れをしていただくことや、民間の保育園も作っていただきました。</p> <p>また、障がいや発達に心配のあるお子さんを育てる保護者の中には、集団活動が中心となる地域園よりも、一人ひとりの特性に合わせて手厚い療育が受けられるこども発達支援センター「わかば」の利用を希望される保護者も多くみえます。しかし、「わかば」が満員で希望通りに利用できないお子さんもいます。そうしたお子さんは、地域園に通いながら、療育を受けるために児童発達支援事業所などを利用しており、お子さんや保護者の負担が大きくなっています。</p> <p>そこで、来年度は、市と岡崎市福祉事業団が協議して、福祉事業団</p>

	<p>が美合町に開設する児童発達支援事業所で、療育が必要なお子さんの受入れを増やしていただくことができました。市としては、令和6年度以降も、お子さんの特性に合った場所に希望どおり通えるよう、「第2わかば」のような支援の場の充実に取り組んでいきます。支援を必要とするお子さんが、より良い場所で支援を受けながら、集団生活にも馴染めるように成長を支援していくことは、結果として、待機児童解消の一助になると考えます。</p> <p>それから、普通の保育園を一つ作るにはお金も時間もかかりますが、定員19人以下の小規模保育所だと、比較的短時間で開設することができるため、小規模保育所の開設に向け、前向きに検討していきたいと考えております。そういった様々なことで特にきょうだい別園、育休退園は解消していきたいと考えています。</p>
<p><不登校問題に対する取組について></p> <p>自分自身の子が不登校だった経験を生かし、岡崎にある三河サドベリースクールでスタッフをしています。そこで働いた経験から、不登校になるイコール学校にいけない、普通ではない、と親が自分自身を責めて精神的にとても不安定になっていることが、子どもも不安定になってしまうことにつながっていると感じています。子どもが自分の思いを表現できる場所がないかと探した結果、三河サドベリースクールにたどり着きました。</p> <p>現状、こういった情報は一般に向けて発信されておらず、みえるものがありません。情報を公開し、皆さんが体験できるような場所を作りたいと考え、5月28日(日)に籠田公園と桜城橋でイベントを開催することになりました。このイベントを開催するにあたり、市と市教育委員会から後援をいただきたいと考えています。</p> <p>来年度は、不登校問題への対応として、市内全中学校に校内フリ</p>	<p><不登校問題に対する取組について></p> <p>市としては、市内全中学校に設置する校内フリースクール、ハートピアの二本柱で不登校対策をしています。市役所には「わかサポ」という総合的な相談窓口を作っていますし、民間を含めたネットワークも構築させていただいておりますので、それらの情報が必要なかたへ届くよう、さらに力を入れて取り組んでいきたいと思えます。</p> <p>市、市教育委員会の後援については、イベントの内容を拝見させていただき、担当課へおつなぎしますので、手続きを進めていただければと思います。</p> <p>連携先は多ければ多いほど良いです。ぜひこれからお互いに連携ができればと思います。</p>

<p>ースクールが設置されますが、そこにも行けないような子どもたちもたくさんいます。そして不登校が全国的に右肩上がりに増えている状況の中で、市が情報を発信するという事は大変意味のあることだと考えます。これから、市とも連携して活動していきたいと思っていますのでよろしくお願いします。</p>	
<p><合同のお墓について> 市政報告の中で、岡崎を大好きなまちに、安心して暮らせるまちにしていくという話がありましたが、その究極にある安心して死ねるまちというものを目指したらいいと思います。毎年、やすらぎ公園にお墓参りに行くと、緑の山がどんどん削られお墓が作られていることが分かります。しかし、結婚しない若者も増えてきている中で、この先そのお墓を守っていく家庭がどれだけあるか、個々のお墓が本当に必要なのかということを考えてみました。 合同のお墓ができれば、病気になったり、代が途絶えたとしても、安心して死ねるのではないかと思います。皆さんが助かる話だと思いますので提案します。</p>	<p><合同のお墓について> 良いご提案をいただいたと思います。ただ、色々な人生観や宗教観が関わってくる話でもあります。 いずれにしても、お墓を守ることができないケースが増えてくるということは確かだと思います。今後、墓地の区画残数、他の宗教法人等の墓地等の経営の状況など、動向を見ながら長期的に検討していく必要があると考えています。</p>
<p><メタバースの導入について> 東海オンエアや大河ドラマなどの大きな流れに乗って岡崎をPRし、市外、県外からたくさんの方が岡崎へ来るようになってうれしいと思っています。しかし、Youtubeの人気の下火になってきたり、大河ドラマが終わった後は、どんな流れに乗る想定があるのかということが気になります。 市政報告の中で、太陽の城の跡地活用の費用面について話されていましたが、そういうものをメタバース空間で実現できれば、大きな流れに乗りつつも費用が抑えられて面白いのではないかと思うので、メタバースの導入を提案します。</p>	<p><メタバースの導入について> メタバースは確かに面白いのですが、いざやるとなると結構な費用がかかります。ドラマ館とリニューアルした岡崎城に、初めてバーチャルなものを導入させていただきました。ドラマ館にはオリジナル映像シアターなどドラマの世界観を体験できるコンテンツがあり、岡崎城にはプロジェクションマッピングを使った体験型の展示をしています。まずメタバースで岡崎市の観光を体験していただいて、本当に行きたくなったら実際に来ていただくというような誘導の仕方はとても有効だと思いますので、今後、コスト面も含め研究していきたいと思っています。</p>

<p><子育て支援団体の活動の場としての空き家活用について></p> <p>2年ほど前から竜泉寺町で子育て支援団体として活動していて、産後から小学校入学までの未就学児のお母さんたちが気軽に集える場を作っています。</p> <p>以前、岡崎市には空き家がたくさんあると聞き、空き家を子育て支援活動の拠点として活用させていただけないか、市に相談させていただいています。しかし、なかなかこれだという場所に巡り合うことができていません。</p> <p>市内には、たくさんの子育て支援団体があります。今後、空き家が増えていく可能性もあると思いますので、例えば市が借り上げるなどして活動の場を提供していただくなど、空き家問題の解決と合わせて一緒に協力して子育て支援を進めていきたいと考えています。御検討いただければと思います。</p>	<p><子育て支援団体の活動の場としての空き家活用について></p> <p>産まれたばかりの赤ちゃんを抱えて運転したり、移動することはあまりしたくないというお母さんも多いので、市内の色々な所にこういった場ができると良いと思っています。</p> <p>国も産前産後の支援に力を入れていますので、その流れに乗って産前産後ケアをはじめ子育てサポートの活動を支援していきたいと思います。</p> <p>それから、空き家の活用については、市が空き家を借り上げて提供するということは正直難しいですが、地域貢献団体が活動を行いたい地域にある空き家の所有者に対し、市が活用を働きかけ、マッチング事業に登録を促すことは行っています。</p> <p>空き家の活用も含めた運営の支援については、活動の内容を拝見し、今後検討させていただきたいと思います。</p>
<p><音声認識について></p> <p>私は、岡崎の難聴中途失聴者の会及び音声認識の文字研究会で活動しています。私は聴覚障がい者で、目の前の皆さんの声が全く聞こえません。マスク社会になって読話ができなくなり、一段と音声認識を使って会話をしています。現在、市が行っている聴覚障がい者の意思疎通支援には、手話通訳と要約筆記があります。今日は、皆さんに見ていただきたいという思いもあり、音声認識を持参して参加させていただきました。現在の科学技術の発展による音声認識技術を利用した文字表示を活用することは聴覚に関わる社会の障壁を取り除く一歩になると考えています。岡崎のデジタルトランスフォーメーション推進計画には、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化と示されています。</p> <p>岡崎市には音声認識で文字表示してくださる場が全くありませ</p>	<p><音声認識について></p> <p>手話言語条例を作らせていただきましたが、手話ができる人ばかりではないので様々なツールを使ってコミュニケーションがとれるように取り組んでいます。例えば最近の話だと、市役所の窓口で筆談ボードを置かせていただきました。</p> <p>社会福祉センターのWi-Fi環境は、来年度、整備させていただく予定です。ミクスがアンテナを設置してくれたことで、おおむね良くなってきたのですが、建物の中に入ると部屋によっては必ずしも良いとはいえない箇所もあるので改善していく予定です。地域福祉センターも整備させていただく予定です。</p> <p>様々な技術革新により、UDトークや、今日御紹介いただいた文字認識といった色々なツールがでてきました。こういったものがどこにどの程度導入できるか考えていきたいと思っています。</p>

<p>ん。この技術を、市民、行政、企業などの立場を超えて活用を促すことで、これまで参加しにくかった立場の人が一人でも多く社会に参画するまちづくりをしていただけると良いと思います。音声認識は技術の進歩でこの3年で素晴らしく認識が良くなりました。Wi-Fiがあり、ノイズのない環境で発音がしっかりできれば、たくさんの困りごとが減ります。御検討をお願いします。</p>	
<p>< 障がい者の就労について > 私は障がい者の子を持つ親です。高齢になり、子の就労が心配です。障がい者は雇用、長期で働ける場所があるかどうかということが非常に問題になっていると思います。親が亡くなった後、他の兄弟が障がい者の面倒をみるというのは絶対に無理です。そういった心配ごとに対して、市として何ができるかを考えてほしいと思います。親の自己解決・自己判断に任せるのではなく、市が真剣になって話し合う場所を作っていただきたいと思います。</p>	<p>< 障がい者の就労について > 当事者や家族・支援者が選択するための情報提供を市が行い、当事者の希望・意思を尊重した上で、判断・決定していただくことで、障がい者が地域で自立した生活を送ることにつながると考えています。 市が特定の企業や事業所を斡旋することはできないため、一般就労や就労継続支援A型事業所を探す場合は「ハローワーク岡崎」、就業や生活面の支援は「西三河障害者就業・生活支援センター輪輪(りんりん)」、障がい福祉サービス(就労継続支援B型)の利用であれば相談支援事業所を紹介しています。</p>

(了)